

子どもの生活と学習を豊かにする図書館活用教育

市議会民生文教常任委員 砂田喜昭

朝始業前に子どもたちが学校の真ん中にある図書館(教室分)へ本を借りたり、返したりしてきていました。行列をついて並んでいる姿には驚きました。(写真1)一人あたり年間平均貸し出し冊数が153冊で完読も一人平均143冊です。本を読むことが楽しい子ども

一人で143冊を完読

朝始業前に子どもたちが学校の真ん中にある図書館(教室分)へ本を借りたり、返したりしてきていました。行列をついて並んでいる姿には驚きました。(写真1)一人あたり年間平均貸し出し冊数が153冊で完読も一人平均143冊です。本を読むことが楽しい子ども

朝8時15分から100分間の朝読書の時間に、読み聞かせボランティア(母や地域の4名が登録)による読み聞かせがありました。この日は1年生の各クラスで、絵本の読み聞かせでした。(写真2)担任の先生もいっしょに聞いていましたが、体の不調を訴えた子に付き添って世話をすることになっていました。

朝読書

読み聞かせボランティア49人

もが増え、聞く力も育っています。この学校新しく転任してきた先生が「様に言っているのは子どもが話をちゃんと聞いている」と感じています。



写真1 行列をつくって本の貸し出しや返還をする子供達

読み聞かせボランティアから話を聞く子供達



写真2

た専任司書を1名配置して、以前は正規職員でしたが、いわゆる行財政改革のせいで今では臨時職員になりました。朝から夕方まで子どもたちが学校にいる時間帯が勤務時間です。正規職員の頃に図書館活用の取り組みが強められた歴史があったことが今日につながっているのです。鶴岡市で唯一加配教員枠を活用して専任の図書館司書教諭が配置されています。私たちの視察も、校長先生といっしょにこの教諭が担当してくれました。司書教諭と校長先生や担任の先生が話している様子を見ていっしょに上下関係といっしょにそれぞれの職務専門を尊重しながら協力しているように子どもたちとの関係もよいところをほめ励ますといっただけが、いっしょに感じました。

国語の時間に図書館の利用の仕方を学んでいました。本の分類の仕組みを教え、欲しい本を自分で探せるようにします。探した本で自分が新しく発見したことを発表したり、紙に記録したりしていました(写真3)。

専任の司書教諭を配置 学校全体が協力する体制

別の高学年の授業では、読書感想文を書きました。ホワイトボードには自分の考え、自分の経験、自分だけの感動文」とあり、自分の考え、自分の経験を書き込むことで、自分だけの感動文がつけると教えていました。授業では本のタイトルをみて何を連想したかを、短冊に書くことから始まります。どのような問題意識をもって読もうとしたのかを、確認するのです。本を読み進んで新しく発見したところ、感動したところにも短冊を挟んでメモを取るよ



写真3

専任の司書教諭から、図書館で本の探し方を教わり、自分で探してきた本を読んでいる子どもたち。手を上げて、新しく発見したところを発表していた。

国保税

住民税申告書提出で7割軽減に

国民健康保険税の納税通知書が届いています。所得がゼロなのに、去年の倍の通知が来たことについて相談に来られた方がいます。所得がないからと所得税の申告をしなかったために、小矢部市で所得や扶養家族を把握できなくて発生したことで、住民税の申告書を提出することで、この方の場合、国保税が7割軽減されることになりました。所得がなくとも税金の申告をする国保税の軽減などを受けることができません。申告書を出したらかといって所得税はかかりません。小矢部市は国保税の納税通知書を発送する数日前に、未申告と思われる方々に、事前に申告をすれば国保税が軽減される場合があるとの案内を出して、本日は国保税が軽減されるのこれから漏れる人がでないように努力しています。疑問のある方は市役所税務課に相談してください。砂田喜昭市議会も相談に乗ります。

「所得ゼロで国保税、去年の倍!」

読書指導で自分らしい読書感想をもつ

国語の時間に図書館の利用の仕方を学んでいました。本の分類の仕組みを教え、欲しい本を自分で探せるようにします。探した本で自分が新しく発見したことを発表したり、紙に記録したりしていました(写真3)。

週刊



赤旗 読者通信 改題

2011.7.24 通巻No.1064

日本共産党 小矢部市委員会

市内七社 245 Fax 67-4842

何でもご相談を



市議会議員 砂田喜昭 67-4322



参議院議員 井上哲士

衆議院議員 笠井あきら

地方政治と住民運動の専門誌

議会と自治体

禁断転載 複製配布